

演題取り下げ

P9-363

仕事を楽しくするためのフィッシュ活動

前橋赤十字病院 看護部 7号病棟

○細谷 和世¹⁾、高橋 美幸、伊藤 好美、清塚 遊、
清水 明美

【はじめに】私たち医療者は常に緊張感をもって仕事をこなさなければならず、ストレスの多い環境にあるといえる。そこで、アメリカのシアトルにある魚市場で従業員の士気及び定着率を高め、職場の活性化を成功させた「フィッシュ哲学」を7号病棟でも広げるため、昨年度よりフィッシュグループを結成した。日々の看護の中に楽しさ・喜びを感じ、また、スタッフ間のコミュニケーションの場を増やすことで、お互いの信頼関係を構築し、1人1人の心の健康を保持・向上するべく活動してきた。また、患者さんへのよりよい医療・看護の提供には、医師・他職種のスタッフとの連携も必要と考え、本年度は医師・他職種を含めたフィッシュ活動を展開している。

【活動内容】メッセージカード等を貼るボードの作成。2ヶ月ごとに誕生日の人を紹介したポスターの張り出し。廊下の棚に季節の飾り付け。お茶会の開催（新人歓迎会、クリスマス会、バレンタインデー）。新人紹介の写真の貼り出し。

【まとめ】季節の飾り付けを変えることで、患者さんから「ここを通るのが楽しみ」と喜んでもらえたり、スタッフからも好評であった。また、誕生日に「おめでとう」と言ってもらえると嬉しいという言葉が聞かれた。ボードに思い出の写真を貼ることで、自然とスタッフ間に会話が生まれ、お互いの関係を深めることができた。それらは、お互いに関心を持ち、仕事上で協力し合える関係へと発展していくと考える。これらのことは、フィッシュ哲学の要素である、人を喜ばせる、楽しむ、注意を向ける、態度を選ぶ、を満たす行動をとる事ができた結果であるといえるのではないかと考える。本年度は、昨年度の活動に加え、医師・他職種へフィッシュ哲学を広げるための活動も開始している。

P9-362

医療材料削減の実施

深谷赤十字病院 事務部 管財課

○松島 正¹⁾

【はじめに】病院医療をとりまく環境は年々厳しい状況となっている。当院は、H17年の建替えにより病床数が増床された分材料費も数億円増加した事から、医療材料に関する購入削減を目的とした医療材料削減プロジェクトを平成18年12月より立ち上げた。準備期間として平成19年1月下旬までに全マスタ及び実績数量についての資料作成し、作成された資料を基に、1.医療材料マスタの各アイテムの削減見込価格の設定、2.納入ディーラー・メーカーの分析、3.分析結果を基に各グループ別・ディーラー別・メーカー別の削減目標の設定、4.年間削減見込価格の算出、5.医療材料削減プロジェクトチームによる役割分担の設定までを平成19年5月まで計画した。3月中旬にディーラー・メーカーの担当者約100名を対象とした説明会を開催し医療材料削減に対する姿勢と本意度をアピールし、支出目標は10%ダウンとしている事を強調した。最終見積書提出までの間に各診療サイド、特に材料使用料の多い部門の担当医師への個別協力要請インタビューの実施、看護師長会にての協力要請及びコスト減の経営へのインパクトの重要性について説明、最後にディーラー（全25社）・メーカー（上位25社）への主旨説明及び個別面談交渉を実施した。

【結果】5か月にわたり資料作成及び交渉等を行った結果、5月21日に最終の見積書の提出に至った。目標額の10%には届かないものの約6.4%となり、約6千万円の削減が可能となり、また平成19年～20年にわたり他施設と共に医療材料の共同交渉を実施する事になり、平成19年下期が約1,800万円、平成20年上期が約600万円の削減となった。

【今後について】昨年より原油の高騰等があり材料が値上しており交渉が難航した事など、他の施設と密な情報交換を行いながら引き続き努力していきたい。今後は、同等品等の入替えや同種品目の統一化を図る事によりコスト削減に繋がると思う。

P9-364

福井赤十字病院のQCサークル活動の経過とTQMへ

福井赤十字病院 事務部 病院経営課¹⁾、事務部長（TQM委員長）²⁾、院長³⁾○渡辺 速美¹⁾、永田 康寛²⁾、野口 正人³⁾

【目的】当院は、2000年4月から、医療の質の向上、業務の改善、患者満足度の向上を目的にQCサークル活動を開始した。各部署毎のQCサークルは、1年毎に目的に沿ったテーマを設け活動をおこなってきた。今回これらの活動状況の経過と成果について報告する。

【方法】2000年度から2008年度までの9年間の176サークルのQC活動を、所属別、内容別で調べた。

【結果】1. 所属別では、看護部門が86%、医療技術部門が8.0%（放射線部、検査部、リハビリ部、薬剤部の順）、事務部門が3.7%、医局部門が1.6%となり、うち複数の部門が共同した活動は5.1%であった。2. 内容別では、作業能率向上（時間外勤務削減、作業時間短縮等）の33%、医療安全向上（注射、投薬等）22%、患者満足向上（待ち時間、接遇等）18%、コスト削減（消耗品削減・診療報酬請求アップ等）13%、診療・看護の質向上（手洗い、インフォームドコンセント等）9.0%、モラル向上（整理整頓等）3.1%となった。

【考察】1. 所属別では、看護部門を中心にQC活動が発展してきた経緯からその取り組みの大半を占め、序々に他部門に拡がっている。今後はチーム医療を重視した部門間を連携した横断的活動が必要となる。2. 内容別では、作業能率向上が3分の1を占めるが、その経過では、活動当初の作業能率向上や医療安全向上から、最近では患者満足向上、コスト削減、診療・看護の質向上へ取り組み数が増え、内容の平準化が進んでいる。

【まとめ】当院のQCサークル活動（PDCAサイクル）は10年目となり、その科学的手法は現場に定着し（中止薬の整理等の活動は院内に水平展開）職員の意識も変化した。今後はさらに他の経営手法（パス、NST、患者満足度向上等）とも連携しながら、総合的品質管理（TQM）を確立したい。